

# 学園近況

## 共にこれから生きるために...

校長 九里 廣志

「この子たちに何が好きかなどと聞かないでください。一日中水しか口に入らないような生活をしているので、好き嫌いなど考えたことが無いのです。」引率の先生から、ホームステイをする家族の方々に伝えられた言葉でした。ザンビアからの生徒を迎えて、実感として知った『アフリカの貧困の現実』でした。

「彼、彼女は敬虔なヒンズー教またはイスラム教やジャイナ教の信者ですので、このようなものしか食べることができません。ご苦労をおかけしますがよろしくお願いします。」インドからのお客様をホームステイ家族にお引き受けいただく時の注意事項でした。『多様な生活文化が混在するインド社会の一端』を知りました。このようにいつもとは違った国からのお客様たちとの交流を通じて、私たちは例年以上に『世界の多様性と現実』を様々な点で知ることができました。歴史、宗教、政治、日常生活、貧困...。私たち日本人の生活の豊かさ。学校で学べる幸せや大切さ。日常的に世界の人々を思いやる気持ちや、行動できる力を持つことの大切さ等々。その他にも様々な事で、日本と大きく違った国と国民がいるということを知った一年でした。

今、九里学園は、これからのグローバル社会で生きるために、より適切な国際感覚と理解力、行動力を身につけようと、教職員・生徒が丸となって取り組んでいます。私たち教員も生徒と共に育って行きたいと思うからです。

# 総会報告

6/28 於 城史苑

## 課題は参加者を増やすこと

実行委員長 小口 信子 (S36年卒)

今年の総会は、同窓会長の叙勲への御祝いがあり、とても喜ばしいことでした。

またアトラクションでは、おきたまシンフォニック・サウンド倶楽部の素晴らしい演奏があり、卒業生が奏者として参加していました。普段生ではなかなか聞くことのない吹奏楽は、子供達がかやっていた頃を思い出しました。

アカペラでの歌も素晴しかったです。合唱を聞くことはあっても、ソロでの歌は、本当に久しぶりでした。私の好きな曲でしたので、昔を懐かしみました。有意義な時を過ごしました。

毎年同窓会の総会は、役員の皆様のご協力の下で、何事もなく終わっていたように思います。でも年々出席者が少なくなっていくように思います。他の学校と比べても大分少ないようです。どうしたら出席率を上げていく事が出来るのか、今後の課題だと思っています。



# JRC部

## 人のために役立つことを意識して

顧問 石山 和美

三・一一の東日本大震災により、米沢市に避難されている福島の子供達との交流や、部活動の一環として親子で現地へ赴いて、復興活動のボランティア等を行っています。日常的に独居老人宅の除雪や夏には見守り訪問をしています。四季折々のお祭りのお手伝いや、災害時の募金活動など要請があれば協力を惜しみません。長年のこのような活動が認められ国際ソロプチミスト米沢支部から表彰されました。現在二十三名の部員で、依頼があったら喜んで協力し、一人ひとりが人のために役立つことを意識して活動していきます。

私達JRC部は、平成二十六年に日本赤十字社に加盟して五十周年を迎えました。地域の方々にはもちろんのこと、広く世界の人々に、平和や福祉のために貢献しようと「気づき・考え・行動する」を目標に、活動してきました。

